

令和5年度 研究推進計画

三次市立三次小学校 教務部

1. 学校教育目標

(1) 学校教育目標

心豊かで 自ら学ぶ意欲のある 子供の育成 ～みんなでつくるみんなの学校～

(2) めざす子供像

- 進んで学ぶ児童 (知)
- 仲良く伸び合う児童 (徳)
- 元気でやりぬく児童 (体)

(3) 育成すべき資質・能力

- 主体性:自らの夢と志を持ち,自分から行動して新たな価値を生み出し,積極的に他に貢献しようとする。
- コミュニケーション能力:自分の考えを持ち,他者の思いを受け止め,言葉を通して互いに理解し,認めあえる。
- 協調性:目的と目標を共有し,目標達成のために自らの役割を理解し,他者と協力できる。

2. 研究主題および主題設定の理由

(1) 研究主題

伝え合う良さを実感できる表現力の育成
～評価と単元構成の一体化を通して～

(2) 主題設定の理由

本校は,令和3年度より広島県の「キャリア教育の充実を中核としたカリキュラム開発事業」の指定を受け,三次中学校区内の小中学校が連携し,生活科・総合的な学習の時間のカリキュラム開発・実践を行い,ルーブリックを作成した。三次小学校では,中学校区内で共通した課題である「表現力」の育成を目指し,「伝え合い」に焦点を当てて,生活科・総合的な学習の時間を研究教科として,「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」「実行」「振り返り」という探究的な学習スタイルを基盤とした単元構成を工夫し,児童にどのような力を付けたいのか,身に付いているのかを定期的に評価し,指導に活かす指導と評価の一体化を目指した。

具体的な取り組みの成果と課題は下記の通りである。

《成果》

① 探究的な学習サイクルを意識して単元を構成し,研究授業を行った。

1年	生活科 「もうすぐ2ねんせい」 【研究授業】
2年	生活科 「あしたへジャンプ」
3年	総合的な学習の時間 「ふるさとのはっけん～三次探険隊～三次どんちゃん～」
4年	総合的な学習の時間 「ふるさとのはっけん～残そう!三次の伝統文化～」 【研究授業】
5年	総合的な学習の時間 「防災について考えよう」
6年	総合的な学習の時間 「つながる三次!～にぎわいのある町にする企画を提案しよう～」 【研究授業】

- ② 身に付けさせたい資質・能力や伝え合っている姿を学年に応じて明確化し、その具体的な姿を児童と共有した。
- ③ 三次中学校区で統一した9年間を見越したルーブリックをもとに、本校の児童の実態等を踏まえ、授業実践を通して改善を行った。
- ④ 地域人材・外部人材を活用した単元設定し、活動を行った。

	内 容	地域・外部人材
1年	生活科 「もうすぐ2ねんせい」 あんしん教室	愛光保育所 ALSOK
2年	生活科 「どきどきわくわくまちたんけん」 花いっぱい運動・さつまいも掘り 明治食育セミナー（乳牛について）	校区の施設やお店等 民生委員 明治の方
3年	総合的な学習の時間 「ふるさとはっけん三次探検隊～三次の小路～」 「ふるさとはっけん～三次探検隊～三次どんちゃん～」 「ふるさとはっけん三次探検隊～三次唐麵焼～」 音楽 「地域に伝わる音楽でつながろう」 道徳 「卓球は4人まで」	森岡さん 天野芳明さん、天野秀樹さん 三次商工会議所青年部 天野秀樹さん 保護者
4年	総合的な学習の時間 「ふるさとはっけん～残そう！三次の伝統文化～」 (鶏飼) (稲生物怪録)	三次市観光協会(鶏匠さん) 中国新聞 三次もののけミュージアム
5年	総合的な学習の時間 「防災について考えよう」 社会 「情報産業とわたしたちの暮らし」	広島県砂防課 広島県防災士・三次市防災士 コンビニエンスストア店員さん
6年	総合的な学習の時間 「つながる三次～にぎわいのある町にする企画を提案しよう～」 「つながる三次～職業調べをしよう～」	三次町ふれあい会館 観光まちづくりを進める会 三次商工会議所 三次商工会議所

- ⑤ 「三次小学校『そろえる』」を全職員で徹底して、児童が安心して学べる環境の整備を行い、話合いの場を設定して授業を行った。伝え合いを楽しんでいる児童が増加した。

《児童アンケートより》生活科・総合的な学習の時間で、考えを伝え合うことは楽しいですか。

	R4年7月	R4年12月
とても楽しい	51.7	52.6
楽しい	35.7	38.2
あまり楽しくない	10.4	8.3
楽しくない	2.2	0.9

《課題》

考えを伝え合うことは楽しいと感じているものの、自分の意見や考えを伝えられているかとなると、ぐっと減少している。(下記の資料参照) この傾向は、学年が上がるにつれて、顕著である。

◎ i-check (6月) 「クラス全体やグループ、友だち同士で話し合いをする時、自分の意見を積極的(活発に)に発言しているか。」

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	平均
いつもしている			67.6	34.1	14.3	7.5	67.75
まあまあしている			20.6	48.8	35.7	42.5	
あまりしていない			5.9	12.2	40.5	40.0	31.62
まったくしていない			5.9	4.9	7.1	10.0	

◎ 三次市学力到達度検査 児童質問紙 (1月)

「自分の思っていることや考えていることを周りの人に話しますか。」

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	平均
話す		68.6	45.2	25.0	21.4	11.4	66.16
わりと話す			41.9	35.0	45.2	37.1	
あまり話さない		28.6	9.7	32.5	28.6	48.6	33.28
話さない			3.2	7.5	4.8	2.9	

◎ 三次市学力到達度検査 国語科・算数科の結果

算数科では全国平均を上回った学年が1・3・4・5年であったが、国語科においては、1・2・4・6年が全国平均を下回った。情報を関連付けて読み取る力や意図に沿って説明する力などに課題が見られる。

		1年	2年	3年	4年	5年	6年
国	本校	73.7	75.0	79.7	71.3	78.8	73.4
	三次市	79.2	83.1	77.2	75.6	78.6	76.3
	全国	74.6	82.0	74.4	72.0	72.7	74.5
算	本校	84.1	67.6	77.5	72.4	78.8	73.4
	三次市	87.5	75.0	77.8	72.0	78.6	76.3
	全国	82.0	70.0	71.1	68.3	72.7	74.5

■ は三次市・全国平均以上 ■ は全国平均以上 □ は全国平均以下

これらのことから、昨年度同様、本校の児童の課題は、「自分の考えを伝える力(表現力)」である。伝え合いは楽しい・大切と感じていても、自分の思いを表現するとなると、一歩下がってしまう。やはり、一人一人が問われていることに沿った自分の考えをもち、発信していく力を身に付けていく必要がある。

これらを踏まえて、今年度は、これまでの取り組みを基に、昨年度作成したリーブリックを活かし、児童が自らの考えをもって発信していけるような単元構成にグレードアップさせていくために、「評価と単元構成の一体化」に重点を置いて研究を行う。引き続き、生活科・総合的な学習の時間を研究教科として、他教科と関連付けながら、探究的な学習スタイルを基盤とした単元構成を行い、3つの資質・能力の向上につなげていく。教師と児童が目指すべきゴール(具体的な姿)を共有化し、探究的な学習スタイルで学習を進めていけば、児童は自らの考えをもって課題解決に向けて学び合うことができるだろう。本校で身に付けさせたい資質・能力の育成に向かって、自己を振り返り、仲間と共に学び合う過程の中で、伝え合う良さを実感させ、表現力の育成を図っていきたい。

3. 研究仮説

○ コミュニケーション能力・協調性・主体性の育成を目指し、探究的な学習スタイルを基盤とした単元構成を仕組めば、伝え合う良さを実感し、表現力が育成できるだろう。

4. 研修計画及び研究方法

(1) 研修計画

①理論研修

- ・「キャリア教育の充実を中核としたカリキュラム開発事業」について
- ・育成すべき資質・能力およびルーブリックについて(具体的な姿を共有)
- ・探究的な学習スタイルについて

②授業研究

- ・全体研修は、外部講師を招聘し、年間3回以上実施
佐藤暁先生(月 日)
学区授業研(7月予定)
公開研究会(11月予定) 全学級授業公開

・授業研までの流れ

- 学年会(2か月前)…目指すべき子供の姿を決定
- 事前研(3週間前)…学習課題の吟味, 子供の姿を共有

③「子供の学びと育ちを語る協議会」…一人一人の学びの軌跡を中心に語る協議会

(座席表や ICT を活用し, 子供の学びを見取る)

④授業交流(生徒指導部と連携)

⑤児童意識調査を実施(7月・12月)

⑥年度末学力調査(1月 三次市学力到達度検査)の実施

⑦全国学力・学習状況調査・三次市学力到達度検査の分析

⑧Mファイルの活用・改善

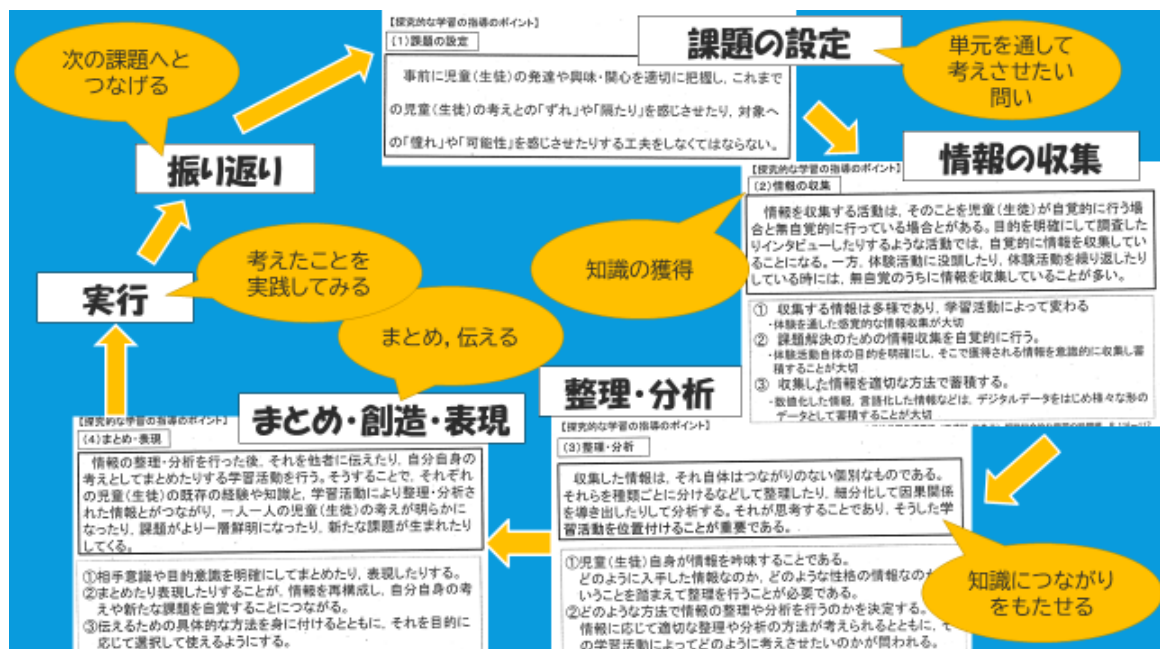
⑨HP での実践公開

(2) 研究方法

本年度は、生活科及び総合的な学習の時間を研究教科とし、他教科と関連づけた単元開発・授業実践を行う。研究方法については、以下の通りである。

①探究的な学習サイクルを意識した単元構成 ⇒ 三次小探究スタイル

探究的な学習サイクルとは、下図のような問題解決的な活動が発展的に繰り返されていく一連の学習活動である。他教科との関連を明確にして、表現力の育成を図っていく。



②学年に応じたゴールの明確化 ⇒ 三次っ子が目指す姿

本校で身に付けさせたい資質・能力や伝え合っている姿を学年に応じた具体的な姿で児童と共有する。

(例) 主体性 → 友達のために行動できる

協調性 → ゴールに向かって協力する

コミュニケーション能力 → 相手の気持ちを考えて行動する

③指導と評価の一体化を目指したルーブリックの活用

ルーブリックとは、三次中学校区で定めた「コミュニケーション能力」「協調性」「主体性」について到達度を測るための評価方法である。各観点で達成したかどうかを児童の具体的な姿で評価するため、実践を通して昨年度作成したものを活用し、改善していく。

指導したことを評価し、次の指導に活かすために、児童が書いたワークシートなどをファイル等で残しておく。また、三次中学校区内で統一されたワークシートを活用し、定期的に振り返るようにする。

④地域人材・外部人材の活用

令和5年度キャリア教育年間指導計画をもとに、各学年1単元以上、地域・外部と連携し、児童の学習に活かす。形式的な学習とならないように、連携する際には、児童にどのような力を身に付けさせるための学習なのかを明確にした上で事前に打ち合わせをしておく。

⑤研究に関連した取組

- ・「三次小学校『そろえる』」を全職員で徹底し、児童が安心して学べる環境を整備
- ・児童が「分からない」「ここまでなら分かる」が当たり前と言える学級風土の確立
- ・「学び合い」は「聴き合い」から始まることを意識した授業規律(別紙提案)

(例) 脱りボイス、ストックフレーズの見直し、教師はしゃべりすぎない など

- ・伝え合っている姿を全職員で共有し、児童に価値付け
- ・掲示物の活用(別紙提案)

全学級「声のものさし」を掲示し、授業の中で活用する

「学習の振り返り」「ルーブリック表」を提示し、授業の中で活用する

本校で「育成すべき資質・能力」を掲示し、授業や学校生活全体を通して児童に価値付ける

(3) 研究構想図(別紙参照)

5. 検証方法と指標

視 点	方 法	指 標(目標)
① 児童が伝え合う良さを感じているか。	・児童意識調査 (7月・12月)	・生活科・総合的な学習の時間において「考えを伝え合うことは楽しい。」「考えを伝え合うことは大切だ。」とする肯定的な評価の児童の割合を70%以上にする。
② 児童に表現力が身に付いたか。	・三次中学校区共通振り返りシート (各単元末)	・各学期末や単元の振り返りにおいて、「コミュニケーション能力」「協調性」「主体性」のアンケートにおいて肯定的に答えた児童をそれぞれ70%以上にする。

心豊かで 自ら学ぶ意欲のある 子供の育成 ～みんなでつくるみんなの学校～

- 進んで学ぶ児童 (知)
- 仲良く伸び合う児童 (徳)
- 元気でやりぬく児童 (体)

伝え合う良さを実感できる表現力の育成
～評価と単元構成の一体化を通して～

研究仮説

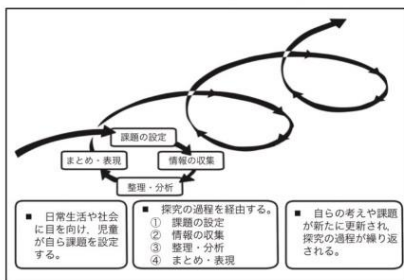
コミュニケーション能力・協調性・主体性の育成を目指し、探究的な学習スタイルを基盤とした単元構成を仕組みば、伝え合う良さを実感し、表現力が育成できるだろう。

<目指す子供像>

自信をもって自分の考えや思いを表現できる子
表現方法を選択し、自分の学びを調整しようとする子

三次小探究スタイル

探究的な学習における児童の学習の姿



目指そう！〇年生の姿！

育成すべき資質・能力が達成された姿を、学年に応じて定めておく。児童がイメージしやすい言葉に変換して掲示しておく。
(例) 主体性⇒何事にもチャレンジしよう
協調性⇒ゴールに向けてみんなで考えよう
コミュニケーション能力
⇒友達のことを考えて行動しよう

ルーブリックの作成

3つの資質能力が達成できたかどうか、児童の具体的な姿で振り返る。
教室に掲示し、いつでも確認できるようにしておく。
振り返ったワークシートは記録として残しておく。

学年	総合的学習の時間	ルーブリック						
3年生	総合的学習の時間	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>具体的な表現</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>自分の考えを述べたことや経験したことなどから、言葉や図表を使って伝えようとしている。言葉や図表を使って伝えようとする。自分の思いや立場の考えを思い入れが、よりよい言葉をしている。</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>自分の考えを伝えようとしている。自分の考えや立場の考えを取り入れていない。</td> </tr> </tbody> </table>	評価	具体的な表現	A	自分の考えを述べたことや経験したことなどから、言葉や図表を使って伝えようとしている。言葉や図表を使って伝えようとする。自分の思いや立場の考えを思い入れが、よりよい言葉をしている。	B	自分の考えを伝えようとしている。自分の考えや立場の考えを取り入れていない。
評価	具体的な表現							
A	自分の考えを述べたことや経験したことなどから、言葉や図表を使って伝えようとしている。言葉や図表を使って伝えようとする。自分の思いや立場の考えを思い入れが、よりよい言葉をしている。							
B	自分の考えを伝えようとしている。自分の考えや立場の考えを取り入れていない。							
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>具体的な表現</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>〇〇のために、自分のすることが分かり、友達にも分かるようになっている。</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>〇〇のために、自分のすることが分かっていない。</td> </tr> </tbody> </table>	評価	具体的な表現	A	〇〇のために、自分のすることが分かり、友達にも分かるようになっている。	B	〇〇のために、自分のすることが分かっていない。
評価	具体的な表現							
A	〇〇のために、自分のすることが分かり、友達にも分かるようになっている。							
B	〇〇のために、自分のすることが分かっていない。							
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>具体的な表現</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>〇〇について、興味をもって調べたりまとめたことになっている。</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>〇〇について、興味をもって調べたりまとめたことになっていない。</td> </tr> </tbody> </table>	評価	具体的な表現	A	〇〇について、興味をもって調べたりまとめたことになっている。	B	〇〇について、興味をもって調べたりまとめたことになっていない。
評価	具体的な表現							
A	〇〇について、興味をもって調べたりまとめたことになっている。							
B	〇〇について、興味をもって調べたりまとめたことになっていない。							

外部人材の活用

活用する目的を明確にしておく。
事前に打ち合わせを行い、児童にどんな力を身に付けさせるための学習なのかを共有しておく。
↓
学びを深めるための体験学習、必要感のある学習
↓
学んだことを振り返り、次の学習に活かす

全教職員で意識統一

- ・生活科、総合的な学習の時間において、表現し合う（伝え合う）機会を確保した単元構成を考える。
- ・「コミュニケーション能力」「協調性」「主体性」の捉え方を各学年で設定する。

- ・自分の思いを伝えることが当たり前の学級風土の確立。
- ・「学び合い」は「聴き合い」からスタートすることを意識する。
- ・児童が安心して登校し、学習できるように「三次小学校『そろえる』」を全教職員で徹底。
- ・「育成すべき資質・能力」を教室に掲示し、授業や学校生活全体を通して児童に価値づけ。